2018年（平成30年度）

# 小畠病院年報

Kobatake Hospital Annual Report

# 病　院　長　挨拶

この度平成最後の年報を上梓いたしました。

平成時代は我々の病院にとってハードの整備とソフトの拡充に費やされた30年でありました。総括してみますと、病に倒れた父に代って急遽私が登板したのは、1983年４月のことでした。当時、田舎の民間の小病院の経営や地域の医療のことは何もわかりませんでした。無我夢中で働き、気がついたら５年あまり経っていました。このままではいけないと思い病院のあり方について模索していた時、運よく1992年度の厚生省の患者環境改善施設整備事業に関わる補助金を受けることが出来、病院中館の新築と本館の改修を行い、急性期医療のための一般病棟と、老人特例病棟（現在の医療療養病棟）とのいわゆるケアミックス型の病院としました。更に2000年３月に東館を増築し、病棟機能の向上とリハビリ機能の拡充を図りました。

その後、社会情勢の変化と医療制度の診療報酬上の誘導が進みました。（2000年）に介護保険制度が始まり、医療と介護の一定の線引きがなされ、以後今でいう地域包括ケアシステムの構築に向けた誘導が進んできました。当院では2007年には地域連携室を立ち上げ積極的に医療連携を進め、更に在宅医療にも取り組む体制を整え始めました。

そのような流れの中で、2016 ～ 2018年にかけて院内改装と北館増築を行いました。2016年11月には休床状態の４床を整備して一般病棟をすべて地域包括ケア病棟（52床）に転換し,続いて地域連携室の拡張移転。その後増築した北館の1階には給食部門や職員食堂、2階には講堂等の整備を行い、最後に中館を改装して薬剤科の移転、職員更衣室や休憩室等病院の機能向上を図り一連のプロジェクトを終了しました。

地域包括ケア病棟において泌尿器科・外科の手術症例、サブアキュート、ポストアキュートなどの症例を、医療療養病棟では回復期を担うリハビリテーション、慢性期医療や緩和ケアなど地域に必要とされる医療を提供できる体制を整えて参りました。2018年度にはほぼ私どもが目指した目標に届いたように思います。

医療の内容は各稿で述べますが、2018年８月には、第２外科部長として甲状腺・内分泌外科を得意とする和久利彦医師が着任し、甲状腺・副甲状腺疾患の診療が再開されました。

高度先進医療を担う病院を除けば、地域で地域包括ケアシステムを担おうとする我々中小病院は総合診療応需が基本であり、地域急性期医療から慢性期医療まで大概の医療に対応出来なければならないと思っています。更に我々はフットワークの軽い「小粒でもピリッと辛い」病院でありたいと思っています。そのために絶えず医の心、看護の心、ケアの心を忘れず、職員一同たゆまぬ努力をする覚悟です。

令和の時代にもこの地域において必要とされる病院であり続けたいと思っていますので、引き続きご指導とご叱責の程をお願い申し上げます。

病院長　小畠　敬太郎

# 病 院 理 念

地域に望まれる理想の医療を目指して

# 基 本 方 針

1．私たちは患者さんの立場に立ち、安心で
満足できる医療を提供します。

1．私たちは患者さんに心から信頼される
医療人を育成します。

1．私たちは地域に密着した病院としての
機能向上を図ります。

# 職員心得10句

1．挨拶はすべての始まり社会人

2．職場では笑顔と返事忘れない

3．今日もまた明るく清くヒトとモノ

4．何事も基本にもどる手引きかな

5．旧弊は振り払うべし若者よ

6．いつまでも試行錯誤を恐れない

7．みんなして同じエラーを二度しない

8．今日から必要なことをすぐやろう

9．明日からはやれない訳（わけ）を探さない

10. 枯れるまでいつも心は向上心

# 病院概要

（2019年４月１日現在）

| | |
|---|---|
| 名称 | 医療法人社団玄同会　小畠病院 |
| 開設 | 1986年3月（創立：1965年2月） |
| 所在地 | 〒720－1142　広島県福山市駅家町大字上山守203番地 |
| | 電話：084-976-1351 FAX：084-976-6309 |
| 理事長 | 小畠敬太郎 |
| 病院長 | 小畠敬太郎 |
| 副院長 | 小畠廉平 |
| | 中井肇 |
| 看護部長 | 佐野京子 |
| 事務局長 | 矢吹秀介 |
| 標榜科 | 内科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科・外科・泌尿器科・眼科・<br>リハビリテーション科 |
| 病床数 | 一般病床（地域包括ケア病棟入院料1）：52床 |
| | 療養病床（療養病棟入院基本料1）：59床 |
| 職員数 | 210人（2019年4月現在） |
| 建築面積 | 1,532.34㎡ |
| 延床面積 | 5,371.35㎡ |
| 保険医療指定機関<br>認定施設 | 各種社会保険療養取扱機関 |
| | 国民健康保険療養取扱機関 |
| | 老人医療取扱医療機関 |
| | 労働災害保険取扱機関 |
| | 生活保護指定医療機関 |
| | 身体障害者福祉法医療機関 |
| | 特定疾患治療取扱医療機関 |
| | 原子爆弾被爆者一般医療機関 |
| | 結核予防法指定医療機関 |
| | 介護保険療養取扱機関 |
| | 人間ドック実施医療機関 |
| | 公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院<br>【認定第JC637-3号、機能種別版評価項目3rd:ver.1.1)】 |
| | 厚生労働省臨床研修指定病院（施設番号031937） |
| | 日本泌尿器科学会専門医教育施設認定病院（施設登録番号900089） |
| | 日本神経学会専門医教育関連施設（認定番号20070816号） |
| | 広島県難病医療ネットワーク事業協力病院 |
| | 広島県地域リハビリテーション協力病院 |

| | |
|---|---|
| 併設事業所 | 居宅介護支援事業所こばたけ |
| | 訪問看護ステーションこばたけ |
| | デイサービスむべやま |
| | ケアモール芦花<br>（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花） |
| | ヘルパーステーション芦花 |
| | 短期入所療養介護事業所 |
| | 短時間通所リハビリテーション |
| 付属施設 | 小畠病院託児所 |

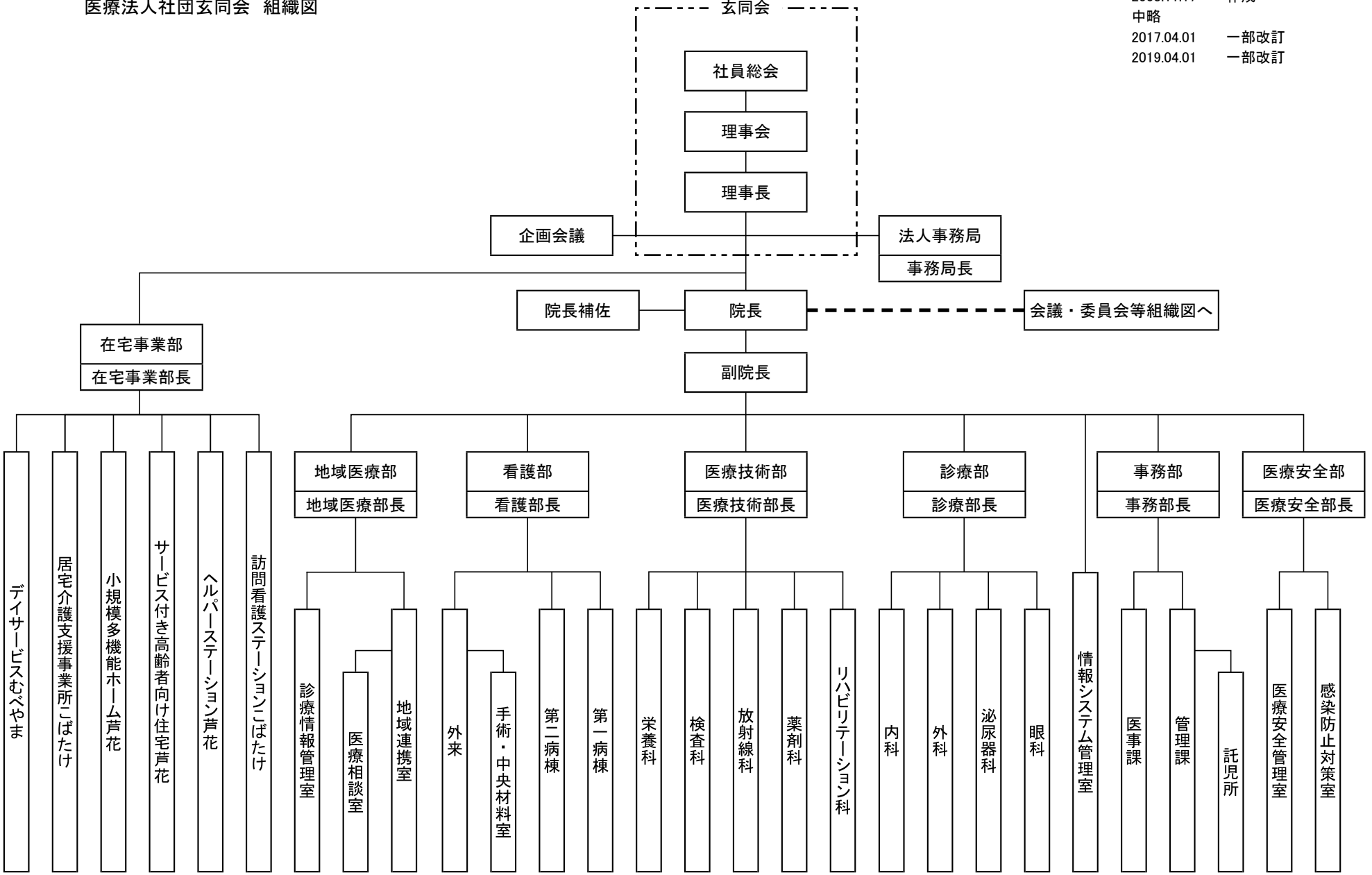
# 病院沿革

| | |
|---|---|
| 1945年 | 旧芦品郡宜山村大橋（現福山市駅家町大橋98番地）の旧高田医院を継承し、<br>小畠医院を開設　　病院長　小畠三喜男 |
| 1950年 | 一次休止 |
| 1957年 3 月 | 小畠内科再開 |
| 1965年 2 月 | 現在地に小畠病院設立　内科・外科（27床）　　病院長　小畠三喜男 |
| 1974年 3 月 | 34床に増設 |
| 1974年 4 月 | 厚生連より運営を委譲され服部診療所開設 |
| 1980年11月 | 泌尿器科標榜　透析治療開始 |
| 1982年12月 | 本館完成　111床に増設 |
| 1983年 9 月 | 神経内科標榜 |
| 1986年 3 月 | 医療法人社団玄同会設立　　理事長　小畠三喜男 |
| 1986年 9 月 | 小畠敬太郎　理事長・病院長に就任 |
| 1989年 2 月 | 胃腸科（現、消化器内科）標榜 |
| 1989年 4 月 | 体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）導入 |
| 1989年12月 | 透析治療終了 |
| 1992年 6 月 | 眼科標榜 |
| 1992年 9 月 | 基準看護承認　基本看護1（一般病棟52床）　特例看護1類（老人特例病棟47床） |
| 1992年10月 | 体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）施設承認 |
| 1993年 9 月 | 日本泌尿器科学会専門医研修指定病院に認定される |
| 1993年12月 | 中館完成 |
| 1994年11月 | 託児所完成 |
| 1996年 4 月 | 第1回病院祭開催 |
| 1997年 1 月 | 服部診療所新改築 |
| 1997年 4 月 | 第2回病院祭開催 |
| 1997年 7 月 | ホームページ開設 |
| 2000年 3 月 | 東館完成 |
| 2001年 4 月 | 第3回病院祭開催 |
| | 院外処方箋開始 |
| 2002年 9 月 | 小畠病院訪問リハビリテーション事業所開設 |
| 2003年 3 月 | 小畠病院居宅介護支援事業所開設 |
| 2003年 7 月 | 広報誌「葦」創刊 |
| 2003年10月 | 厚生労働省臨床研修病院（協力型）に指定される |
| 2004年 4 月 | 広島県難病医療ネットワーク事業協力病院に認定される |
| 2004年 6 月 | 本館増築工事完成 |
| | 小畠病院デイサービスセンターむべやま完成 |
| 2005年 4 月 | 広島県地域リハビリテーション協力病院に指定される |

| | |
|---|---|
| 2005年 8 月 | 公益社団法人日本医療機能評価機構認定病院に指定される |
| 2006年 5 月 | 第4回病院祭開催 |
| 2006年10月 | 服部診療所閉院 |
| 2007年12月 | オーダリングシステムを中心とした医療情報システムの導入 |
| 2008年 4 月 | 地域連携室開設 |
| 2008年 7 月 | PACS（画像情報システム・フィルムレス化）導入 |
| 2010年 8 月 | 公益財団法人日本医療機能評価機構 認定病院に更新認定される |
| 2010年10月 | 一般病棟52床（内　亜急性期病床6床）、療養病棟60床の計112床に病床変更承認 |
| 2013年 3 月 | ケアモール芦花（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）開所 |
| 2013年10月 | 小畠病院訪問看護ステーション開設 |
| 2013年11月 | 亜急性期病床を廃止し、一般病棟52床、療養病棟60床の計112床に病床変更承認 |
| 2014年 8 月 | 循環器内科標榜 |
| 2015年 2 月 | 電子カルテシステムの導入 |
| 2015年 8 月 | 日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される |
| 2016年 4 月 | 福山市一般二次救急病院群輪番制に参加 |
| 2016年11月 | 一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：60床（療養病棟）の計112床に病床変更 |
| 2017年 3 月 | ヘルパーステーション芦花開設 |
| 2017年 4 月 | 一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：59床（療養病棟）の計111床に病床変更 |
| 2017年10月 | 第5回病院祭開催 |
| 2018年 1 月 | 通所リハビリテーション（デイケア）開設 |
| 2018年 3 月 | 院内託児所新築移転 |
| 2018年 8 月 | 北館完成 |
| 2018年10月 | 訪問看護ステーションこばたけ　神辺サテライトステーション開設 |

# 医療法人社団玄同会　組織図

2003.11.17　作成
中略
2017.04.01　一部改訂
2019.04.01　一部改訂



# 内　科

内科部長　**原　睦展**

## ■概要

内科は初期診療の段階で適切な診察と検査で病因を究明し、早期診断を行い、最善の治療へ結び付けることを常に考え診療をしています。内科の診療対象となる疾患は数多くありますが、当院では一般内科の他、病院長の専門とする脳神経内科、小畠副院長による循環器内科、原医師による消化器内科に加え、非常勤医師による糖尿病内科および呼吸器内科の専門治療を行っています。

〈スタッフ〉

常勤医師……3名

非常勤医師…8名

## ■活動実績

2018年度の内科全体の外来患者数は延べ23,569人で、対前年度比5.7%減でした。入院では新規入院患者数が617名、延べ入院患者数は30,238人となっています。(表1)

一般病棟の入院診療は、副院長・内科医師と毎日交替で回診をし、それに加えて院長の総回診もあります。また、日々の患者さんの変化に細かく対応するため、外科系の医師やコメディカルスタッフも含めたカファレンスを毎朝行い、診断・治療を進めています。入院症例は肺炎が最も多く、続いて大腸ポリープ、心不全、悪性新生物、パーキンソン病、睡眠時無呼吸症候群となっています。糖尿病、呼吸器、循環器の各科専門医の在院日には専門医の対診も合わせて行っており、睡眠時無呼吸は脳神経内科と呼吸器内科で診療しています。(表2)

2016年度より参加している福山市一般二次救急病院輪番制では、2018年度は当番回数46回、受け入れ患者数は169名でした。(表3)

在宅医療については、機能強化型在宅療養支援病院としての74件の往診、737件の訪問診療を行い、363件の医学総合管理料を算定しました。(表4)

## ■診療実績・統計

表1: 外来延べ患者数　（単位：人）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 初　診 | 2,577 | 2,455 | 2,252 |
| 再　診 | 22,696 | 22,529 | 21,317 |
| 合　計 | 25,273 | 24,984 | 23,569 |

表2: 睡眠時無呼吸症候群患者実数　（単位：人）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 初　診 | 76 | 21 | 38 |
| 再　診 | 190 | 157 | 167 |
| 合　計 | 266 | 178 | 205 |

表3: 輪番当番日の受入れ状況　（単位：件）

| | 2018年 | | | | | | | | | 2019年 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
| 受入数 | 11 | 13 | 19 | 23 | 13 | 13 | 9 | 14 | 21 | 8 | 8 | 17 | 169 |
| 救急搬送 | 4 | 4 | 4 | 9 | 6 | 5 | 6 | 9 | 6 | 2 | 3 | 6 | 64 |
| ウォークイン | 7 | 9 | 15 | 14 | 7 | 8 | 3 | 5 | 15 | 6 | 5 | 11 | 105 |

輪番当番体制時間帯（18:00~8:00）での受入件数

表4: 在宅関連件数等　（単位：件）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 延べ往診件数 | 121 | 139 | 74 |
| 延べ訪問診療件数 | 772 | 849 | 737 |
| 在医総管・施医総管算定件数 | 287 | 422 | 363 |
| 在宅看取り件数 | 6 | 9 | 12 |

## 脳神経内科

当院では脳神経内科の外来診療は一般内科外来の中で行っています。何らかの神経疾患を心配して来院された患者さんや、元々当院へ来られた患者さんの中に混じっている神経疾患を見逃さず正しく診断して、適切な治療を受けられる機会を与えて差しあげたいと思っています。

一方では頭痛やパーキンソン病などのように最初からその診断と治療を求めて来院される方もあります。診療は丁寧な病歴聴取が基本であり、一般身体理学的所見・神経学的所見に基づくローテク神経内科に徹しています。さらに高度な画像検査などが必要な場合は連携している高度専門的医療機関にお願いしています。

このような診療スタイルで患者さん・ご家族に信頼されることに喜びを感じています。神経内科疾患としては、パーキンソン病やその関連疾患、脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経難病の長期 follow up も行っています。当院は広島県の難病協力病院に指定されており、病初期から進行期・末期まで様々なステージの患者さんに対して、薬物療法、リハビリ、合併症の予防や管理などを行っています。更にレスパイト入院や、当院や他の訪問看護ステーションと連携して、在宅医療にも貢献したいと思っています。

なお急性期脳血管障害や炎症性〜免疫性神経疾患は高度専門医療機関にお願いしています。回復期になれば当院で引き続き治療やリハビリを行うような役割分担もできています。

### 1. 外来患者数

（1）神経難病患者数　（単位：人）

| | | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|---|
| パーキンソン病及び<br>パーキンソン関連（※1） | 初診 | 68 | 45 | 26 |
| | 再診 | 1,342 | 1,220 | 1,274 |
| 多系統萎縮症 | 初診 | 4 | 2 | 0 |
| | 再診 | 64 | 26 | 26 |
| 筋萎縮性側索硬化症 | 初診 | 7 | 2 | 0 |
| | 再診 | 31 | 19 | 15 |
| 認知症 | 初診 | 80 | 53 | 33 |
| | 再診 | 1,254 | 1,159 | 1,133 |
| 脊髄小脳変性症 | 初診 | 3 | 0 | 4 |
| | 再診 | 530 | 340 | 418 |
| ハンチントン病等その他 | 初診 | 0 | 2 | 3 |
| | 再診 | 125 | 107 | 127 |

※1　パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

(2) 頭痛患者数　（単位：人）

| | | | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 片頭痛 | | 初診 | 85 | 38 | 31 |
| | | 再診 | 913 | 770 | 662 |
| 緊張型頭痛 | | 初診 | 112 | 53 | 25 |
| | | 再診 | 1,259 | 1,483 | 1,379 |
| 群発頭痛 | | 初診 | 0 | 0 | 2 |
| | | 再診 | 8 | 7 | 18 |
| MOH | 片頭痛 | 初診 | 8 | 8 | 3 |
| | | 再診 | 157 | 225 | 209 |
| | 緊張型頭痛 | 初診 | 0 | 1 | 0 |
| | | 再診 | 8 | 13 | 0 |

2. 神経難病・認知症新入院患者数　（単位：人）

| | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|
| パーキンソン病及び<br>パーキンソン関連（※1） | 69 | 70 | 64 |
| 多系統萎縮症 | 7 | 2 | 0 |
| 筋萎縮性側索硬化症 | 5 | 8 | 7 |
| 認知症（※2） | 106 | 92 | 112 |
| 脊髄小脳変性症 | 4 | 7 | 6 |
| ハンチントン病等その他 | 2 | 1 | 0 |

※1　パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む
※2　認知症を伴うもの

## 消化器内科

消化器内科では腹痛、嘔吐、便通異常などの主に腹部症状を訴える患者さんを対象として各種検査・治療を行っています。

検査の結果、診断された食道癌、胃癌、肝癌、急性胆のう炎、膵癌、大腸癌、虫垂炎などの疾患は高次病院へ紹介し治療に結び付けています。萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染に対して積極的に除菌療法を行っています。また、高次病院からの癌終末期患者の紹介にも対応し、在宅や入院での緩和医療を行っています。

消化器内科各検査・各処置件数　（単位：件）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 内視鏡検査 | | | |
| 上部（食道・胃・十二指腸）経口 | 384 | 479 | 478 |
| 上部（食道・胃・十二指腸）経鼻 | 651 | 565 | 579 |
| 下部 | 383 | 337 | 366 |
| 内視鏡処置 | | | |
| 内視鏡的大腸ポリープ切除術 | 96 | 82 | 70 |
| 胃瘻造設術 | 37 | 31 | 35 |
| 胃瘻交換 | 115 | 117 | 121 |
| 腹部超音波検査 | 553 | 535 | 503 |

## 循環器内科

循環器内科は常勤医が診療を行っているのに加え、週1日岡山大学循環器内科学教室からの非常勤医師派遣を受けながら診療を行っております。当院は高血圧、心不全の高齢患者さんが多く、外来ではそういった患者さんの診察を行い、急性心不全や慢性心不全の急性増悪を認めた場合は入院での加療を行っております。急性冠症候群や明らかな重症弁膜症からくる心不全といった緊急での心臓カテーテル検査や手術が必要なケースの場合は、患者さん本人やご家族とも相談の上、主に福山市民病院、福山循環器病院などの専門機関に紹介しております。緊急性はないものの後に心臓核医学検査、心臓カテーテル検査や手術といった侵襲的治療が必要と思われた患者さんについても専門機関に紹介しております。逆に専門機関からの継続加療目的にてご紹介頂いた患者さんについては、当院でお受けしています。2018年度は心不全の患者数は前年度より減少しておりますが、高血圧の患者さんが前年度より増加してました。2019年度より心不全チームを立ち上げ、入院中の心不全患者さんに対する在宅復帰への指導や在宅復帰後も心不全増悪を防ぐため心不全手帳を使った継続的な指導を行っていく予定です。当院で出来ることは限られていますが、その中でできる限りの対応や治療を行っていきたいと思っています。

### ■診療実績・統計

（単位：人）

| | | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|---|
| 心不全 | 初診 | 49 | 52 | 41 |
| | 再診 | 2,621 | 2,499 | 2,397 |
| 不整脈<br>AF、PSVT含む | 初診 | 58 | 24 | 13 |
| | 再診 | 3,078 | 1,613 | 1,469 |
| 弁膜症<br>AS、MR含む | 初診 | 9 | 6 | 2 |
| | 再診 | 293 | 255 | 237 |
| 高血圧症 | 初診 | 144 | 177 | 186 |
| | 再診 | 12,226 | 13,101 | 12,062 |
| 先天疾患<br>ASD、VSD含む | 初診 | 1 | 0 | 0 |
| | 再診 | 0 | 0 | 0 |

# 外　科

外科部長　**中井　肇**

## ■概要

2016年6月より外科診療を再開いたしました。当初は常勤医師1名での診療で、一般的な外科の初期治療を主体に、腹部疾患についての総合的な診療も行っていましたが、2018年8月より下記のごとく、内分泌外科専門医である和久医師が常勤として当院に勤務するようになり、外科医2人体制となりました。

入院に関しましては、高次基幹病院での外科手術後（整形外科手術も含む）の患者さんのポストアキュートケア症例が徐々に増加しています。また当院では、鼠径ヘルニア等の小手術にも対応しており、手術件数も増加してきています。和久医師が着任後は、甲状腺・副甲状腺疾患の全身麻酔手術が急速に増加しています。

地域における当科の役割を果たすことが出来るよう、今後も努力して参ります。

〈スタッフ〉　常勤医師……2名

## ■診療実績・統計

1. 外来延べ患者数　（単位：人）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 初　診 | 604 | 527 | 806 |
| 再　診 | 1,200 | 1,414 | 1,818 |
| 合　計 | 1,804 | 1,941 | 2,624 |

2. 延べ入院患者数　（単位：人）

| 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|
| 468 | 1,835 | 1,815 |

3. 手術件数

| 手術症例 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 鼠径ヘルニア根治術 | 8 | 10 | 19 |
| 大腿ヘルニア根治術 | 0 | 0 | 1 |
| 甲状腺切除術 | 0 | 0 | 13 |
| 副甲状腺切除術 | 0 | 0 | 6 |
| 頚部リンパ節生検 | 1 | 0 | 0 |
| 経肛門的ポリープ切除術 | 0 | 0 | 1 |
| 外痔核血栓摘出術 | 3 | 0 | 1 |
| ひょう疽手術 | 2 | 0 | 0 |
| アテローム切除術 | 1 | 0 | 0 |
| 大腿腫瘤切除術 | 1 | 1 | 0 |
| 背部皮下腫瘤切除術 | 1 | 0 | 0 |
| 粉瘤切除術 | 1 | 5 | 1 |
| 疣贅切除術 | 1 | 0 | 0 |
| ポケット切回開術 | 1 | 0 | 0 |
| 抜爪術 | 0 | 1 | 0 |
| 気管切開術 | 4 | 2 | 0 |
| CVポート挿入留置 | 0 | 5 | 2 |
| 合　　計 | 24 | 24 | 44 |

## 内分泌外科

甲状腺・副甲状腺を中心とする内分泌疾患診療を、内分泌外科専門医である和久医師が2018年8月より再開いたしました。以前当院で片桐医師が内分泌疾患診療を担当され、福山市および福山市周辺地区の内分泌疾患診療に多大な貢献をされてきました。以前にも増して、福山市および福山市周辺地区の内分泌疾患診療に貢献出来ますように微力ながら尽力いたす所存ですので何卒宜しくお願い申し上げます。

当院泌尿器科にて、福山市および福山市周辺地区の尿路結石患者を多く引き受けて診療しています。尿路結石患者での副甲状腺機能亢進症患者が5%の頻度で含まれていると報告がされています。当院の尿路結石患者数からすれば、多数の副甲状腺機能亢進症患者が含まれていると考えられ、今後副甲状腺疾患の手術症例数の増加が見込まれます。

■統計（2018年8月から2019年3月までの手術件数19例の内訳）

| | |
|---|---|
| 甲状腺悪性疾患（癌・悪性リンパ腫） | 6例 |
| バセドウ病 | 4例 |
| 悪性疾患と鑑別を要する良性腫瘍 | 3例 |
| 副甲状腺疾患（癌・腺腫・過形成） | 6例 |

# 泌尿器科

泌尿器科部長　**大口　泰助**

## ■概要

泌尿器科は泌尿器科専門医である常勤医師2名（うち1名は指導医）と非常勤医師とで診療あたっています。また、日本泌尿器科教育施設であり、研修医の受け入れも随時行っています。

2018年度の外来患者数は延べ17,621人、新規入院患者数は605人でした。入院症例の内訳では結石が243例で最も多く、全体の40.2%を占めています。手術件数は ESWL が対前年度比22%増で増加傾向にあります。

〈スタッフ〉常勤医師……2名　非常勤医師……2名

## ■診療実績・統計

1. 外来患者数　（人）

| | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|
| 初　診 | 2,339 | 2,394 |
| 再　診 | 15,282 | 15,203 |
| 合　計 | 17,621 | 17,597 |

2. 入院患者数等　（人）

| | | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 新規入院患者数（人） | 男性 | 466 | 470 |
| | 女性 | 108 | 135 |
| | 合計 | 574 | 605 |
| 平均年齢 | | 70.29歳 | 69.31歳 |
| 平均在院日数 | | 9.94日 | 7.90日 |

3. 入院総数の主な内訳　（人）

| | | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 悪性腫瘍 | 前立腺癌 | 84 | 69 |
| | 膀胱癌 | 64 | 68 |
| | 腎盂・尿管癌 | 6 | 6 |
| | 腎癌 | 3 | 0 |
| 結　石 | 腎・尿管 | 129 | 219 |
| | 膀胱・尿道 | 17 | 24 |
| 炎　症 | 腎盂腎炎 | 58 | 47 |
| | 前立腺炎 | 25 | 16 |
| | 精巣上体炎 | 3 | 2 |
| | その他 | 8 | 4 |
| 良性腫瘍 | 前立腺肥大症 | 110 | 89 |
| | その他 | 5 | 7 |
| その他 | | 62 | 54 |
| 合　計 | | 574 | 605 |

4. 手術総数の主な内訳　（単位：件）

| | | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 結石手術 | ESWL（体外衝撃波による結石破砕術） | 221 | 270 |
| | 経尿道的尿管結石摘出術（うちレーザー） | 60(33) | 80(52) |
| | 経皮的腎尿管結石摘出術（うちレーザー） | 4 | 5 |
| | 経尿道的膀胱尿道結石摘出術 | 19 | 32 |
| 前立腺肥大症 | TUR-P（経尿道的前立腺切除術） | 39 | 26 |
| | メモカス留置 | 6 | 3 |
| | 前立腺全摘出術 | 2 | 0 |
| | 後腹膜鏡下腎摘出術 | 1 | 0 |
| 悪性腫瘍手術 | 後腹膜下腎尿管全摘出術 | 2 | 0 |
| | TUR-BT（経尿道的膀胱腫瘍切除術） | 43 | 43 |
| | 膀胱多部位生検 | 23 | 24 |
| 前立腺生検 | | 101 | 106 |
| その他 | | 59 | 62 |
| 合　計 | | 580 | 651 |

# 眼　科

眼科部長　**瀧川　泰**

## ■概要

当眼科は平成4年6月の開設以来、26年目を迎えました。白内障や緑内障、加齢黄斑変性等の眼底疾患の診断・治療、コンタクトレンズや眼鏡の処方などを行っております。4月よりコンタクトレンズ未経験者の受け入れを再開し、コンタクトレンズ装脱練習指導も行っております。また、糖尿病や高血圧などの内科的疾患から目に症状がくることがあるため、内科と連携を図り、早期発見、診断・治療に努めております。

〈スタッフ〉

医師……1名

視能訓練士…1名

眼科検査員…3名

## ■診療実績・統計

1. 外来延べ患者数　（単位：人）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 初　診 | 2,411 | 2,392 | 2,361 |
| 再　診 | 6,740 | 6,594 | 6,335 |
| 合　計 | 9,151 | 8,986 | 8,696 |

2. 各検査件数　（単位：件）

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---|---|---|---|
| 矯正視力 | 7,797 | 7,639 | 7,392 |
| 調節 | 118 | 109 | 117 |
| 負荷後屈折 | 15 | 14 | 19 |
| 眼圧 | 6,481 | 6,233 | 6,098 |
| 静的視野（オクトパス） | 287 | 298 | 321 |
| 動的視野（GP） | 9 | 8 | 8 |
| 精密眼底検査（片側） | 12,123 | 12,037 | 11,511 |
| 眼底カメラ撮影 | 48 | 62 | 58 |
| 眼底三次元画像解析（OCT） | 1,472 | 1,415 | 1,374 |
| 細隙灯顕微鏡検査 | 6,884 | 7,023 | 6,845 |
| 眼鏡処方 | 190 | 167 | 201 |
| コンタクトレンズ処方 | 2,210 | 2,061 | 2,009 |